

## その後のビッカートン

- Bickerton, Derek (1990年). *Language and Species*. University of Chicago Press (『ことばの進化論』)
- デレック ビッカートン (著), Derek Bickerton (原著), 笥 寿雄 (翻訳)

## ビッカートンの影響によって言語起源論のタブーが破られる。

- Aitchison, Jean (1996) *Seeds of Speech: Language Origin and Evolution*. Cambridge University Press. (『ことば 始まりと進化の謎を解く』 ジーン・エイチスン/今井邦彦 / 新曜社 1999)
- 化石の発掘、大脳生理学の発達、ピジン・クレオールの研究の進展により、従来タブーとなっていた言語起源論および進化論が可能となった。

# ビッカートンの自伝的回顧録

- Derek Bickerton (2008) **Bastard Tongues: A Trailblazing Linguist Finds Clues to Our Common Humanity in the World's Lowliest Languages**